

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日	
		指定年月日	平成16年3月1日	
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘			
事業所名	グループホーム 都筑の丘			
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	27名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川和町の豊かな自然の中で四季の移ろいを肌で感じ、心豊かに過ごしていただくよう努力しています。2000坪の敷地を活かし庭のしだれ桜の下でのお花見、ご家族、地域の皆さんも楽しみにしている納涼祭、本格的な餅つき、保育園児との芋堀、野菜作り等を楽しんで頂いています。春の遠足、敬老祝賀コンサート、クリスマスコンサートも毎回プロの演奏家に来ていただいて至福の時をご家族と職員も共有しています。中でも、音楽療法の「爛々会」は歌うことの楽しみ、喉のトレーニングに効果を発揮しています。喉を動かすことで口から美味しく食べることにつながります。毎食かつお節と昆布からだしを取り、地元の商店街から新鮮な食材が毎日届き、ほとんど加工食品を使わない手作りの食事を日々提供しています。畑で収穫した野菜で作った豚汁は都筑の丘の行事の時の定番メニューです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年3月26日	評価機関 評価決定日	平成30年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、横浜市営地下鉄グリーンライン川和町駅から、徒歩10分程度の緩やかな丘陵地の一面にある。鉄道駅が近いにも関わらず、川和町の昔からの田園風景が、ここかしこに残されたのどかな地域である。徒歩圏内には、地域に根差した商店街があり、買い物にも便利である。広い敷地内に木造平屋建及び木造2階建の2棟がゆったりと建てられており、3ユニットの事業所となっている</p> <p>【理念の実践】 開設当初からの理念を大事にしながら、利用者が「安心して、家庭的な生活が出来るように支援」している。職員は、名札の裏面に記載された「理念」を常に携帯し、朝礼で唱和している。参加の職員が、唱和した理念についての思い等を話す場にもしている。事業所開設以来、恵まれた環境の中、この理念をよりどころにして、利用者の「心豊かな生活」を支えている。</p> <p>【地域との交流】 この事業は、計画段階から地域の方と話し合い、地域の協力のもと地域密着の事業として進めてきた経緯がある。地元からの入居者も多く、地域との交流が活発である。事業所の広い敷地を活用した納涼祭に地域の方を招待したり、中学校生徒の職場体験の受け入れ、近隣保育園との交流、民謡ボランティアや園芸ボランティアの来訪など、地域に支えられている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してある。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。毎月曜日の朝礼時に復唱しています。	理念は、開設時に前理事長と職員が話しあって作成したものである。職員は、名札の裏に記載した理念を常時携帯しており、朝礼で唱和して、その都度内容を確認している。開設以来、理念を道しるべとして、利用者が「安心して、家庭的な生活が出来るように支援」している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり感謝です。氏神様の初詣の甘酒のふるまい、川和囃子連の獅子舞、町内会の盆踊り、ホームの納涼祭には全面協力していただいています。地域住民と連携の消防訓練にも参加していただいています。	地域住民とは事業の計画段階から話し合いを持ち、地域に必要とされる事業所づくりを目指している。近隣から入居された方が多く、地域との交流は盛んである。地域の夏祭り、盆踊り、防災拠点訓練に参加している。事業所の納涼祭に地域の方を招待したり、中学校生徒の職場体験の受け入れ、近隣保育園との交流、民謡ボランティアや園芸ボランティア等の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に1度運営推進会議を行っています。委員の方々にはホームの行事にも参加していただいています。	会議は2か月に1回定期的に開催している。入居者・家族、町内会長、婦人会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティア、消防団代表が参加している。参加者からは、参加メンバーを増やすこと、納涼祭の運営方法、認知症カフェの設置などについて提案があり、意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。認知症サポーター養成講座の講師、認知症カフェ連の講師をすることで連携しています。	区の「認知症サポーター連絡会」のスタッフとして、認知症サポーター養成講座を、企業、町内会、老人会を対象に企画、実施している。「認知症フォーラム」では、パネル展示を行い、地域での認知症理解を進めている。市の担当課と連携し、生活保護費受給の利用者を支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いています。	「身体拘束・虐待防止マニュアル」に基づき、身体拘束の無い介護を目指している。玄関は安全のため、家族の同意を得て、施錠している。共用空間や居室は広くゆとりがあり、居室からは、自由にテラスに出られるなど、開放感のある構造になっている。今年度は、県作成の身体拘束に関する「自己点検シート」を活用して職員研修を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	認知症の対応は困難な事が多々あります。それが職員のストレスになり虐待に繋がる場合があります。職員一人一人が自己点検シート（虐待チェックシート）を作成してそれを資料として研修をおこなっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為の勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は管理者、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族と対応するようにしている。そこからケアプランに繋げて反映させています。	意見箱が玄関に設置されている。家族は、事業所の餅つきや納涼祭等の行事に参加し、家族同士でも連絡を取り合う顔見知りの関係になっている。外部評価の家族アンケートは、家族の意向を把握する良い機会になっている。利用者同士のトイレ利用に関するトラブル解決について、家族からの要望を受け対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月W会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し即実行している。各行事の実行委員による反省会で出されたことは来年度に反映されている。管理者は必ず出席しています。	毎月、定期的に全体会議とユニット毎のワーカー会議を開催し、行事や研修等に関して意見交換をしている。職員から、納涼祭等の行事の効率的な運営についての意見があり、家族に説明して改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時は勤務の便宜を図っています。社内研修はW会議の時にタイムリーな課題で行っています。社外研修にも参加できるように考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加している。現場研修にも毎年参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいで対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対しての思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。帰宅願望、入浴拒否はあって当然と職員は理解して対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に來て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族にさせていただくこともケアと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っています。	地元から入居した利用者が多く、友人や近所の方の来訪が多い。家族や友人との手紙、年賀状、電話の支援をしている。家族と一緒に教会に通ったり、教会の関係者の来訪がある利用者がある。家族と一緒に馴染みの美容院や飲食店に出かけている。また、入居前からの読書の習慣を継続している方もいるなど、これまでの生活習慣を継続する支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれてトラブルを未然に防ぐようにしている。お互いに一方通行の話でも楽しそうに話しているのを職員は温かく見守っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応している。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	意向の把握が困難な場合も、表情や仕草で察するようにしている。散歩の際には、本人の好みのコースを選ぶなど、心を開いてもらえる工夫をしている。入浴介助時や夜間のトイレ介助時など利用者と職員が1対1になる時は、意向を把握する機会になっている。把握した情報は、ワーカー会議等で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い今後のケアに反映させている。お話しの中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをさせていただくことで職員も助かっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行等でトラブルが生じた時はその都度職員同志で話し合いご家族に相談し早い対応をしています。介護計画の目標が達成できるように実施状況を毎日意識してケアを行っています。	毎月のケアカンファレンスで、介護計画の実施状況を確認し、原則6カ月に1回の見直しに繋げている。医療情報は、医療往診ファイルに記録された内容を計画に反映している。介護計画を意識しながら日々の介護をしている。介護記録は「報告書」として、毎月家族に郵送し、情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎月報告書をご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、民謡、納涼祭、餅つき、ダンスなどの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂き安全で豊かな生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応もしてくれるので職員も安心している。入居者も顔なじみのDrの往診に笑顔で受診されています。	入居前からのかかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。協力医の往診は、月2回、歯科医の往診は必要に応じてある。家族同行で精神科への通院がある。家族が同行する場合には、家族から受診の状況を聞き取り、個人ファイルに記録して情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師には気軽に相談でき電話での相談もいつでも快く対応してくれるので心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、カンファレンスにはホーム長、管理者が同行して病院との連携を計っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は医療と家族と一緒に話し合い、ホームでできる範囲のケアを職員と検討し行っている。介護保険上の看取りはしていませんが、現実にはそれに近いケアをかかりつけ医に相談しながらしています。	入居前に看取りケアは実施していないことを説明している。重度化した時は、家族、医師と相談しながらできる範囲のケアをしている。退去の際は、特別養護老人ホーム等への入所支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時応急手当、救命措置、AEDの使い方を消防署の指導を受けています。また、事故が発生した時はそれを教訓として事例検をしています。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	歩行できない入居者（特に2階）を救助する訓練をしています。認知症であることで他所での避難生活は難しいと思っています。広い敷地を利用した避難生活考えています。	年2回防災訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で消防署職員が立ち会っている。その際、地元消防団や近隣住民も参加している。地域で実施している「地域防災拠点訓練」に職員が参加しており、区消防署主催の「防火管理者研修」を法人役員が受講している。災害備蓄は、職員分を含め、3日分以上の飲料水と非常食がある。	災害備蓄は、職員分を含め3日分以上を事業所外の倉庫で保管しています。非常時に備え、備蓄管理表を作成し、事業所内事務室等に掲示するなどして、職員に備蓄状況を周知することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行により本来のその人らしさが失われてしまうことがあります。その方の尊厳を大切にしたい言葉かけや対応を心がけています。	羞恥心に配慮した声掛けをしている。特に、着衣の乱れや失禁がある時は、さりげなく耳元で話すなどの配慮をしている。利用者同士も互いに気遣いをしあう関係になっている。接遇研修は入職時と年1回の継続研修をしている。個人情報関係書類は、全て事務室内で扱っており、鍵付きキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由に入浴時間なども希望の時間にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めていただいています。できない方は職員がご本人に聞きながら着けていただいています。季節、色の組み合わせ等を配慮してコーディネートしています。時にはお化粧品をすることもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭き、食器をしまう等一人一人の得意な事をしていただいています。外食や出前をとったりすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。	献立及び食材の発注は管理栄養士に委託している。発注先は、馴染みの地元商店街の専門店であり、新鮮で安心・安全な食材の購入にこだわっている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭き等、できる事を手伝っている。職員は、利用者を見守ったり、介助したりしながら、同じテーブルで同じ食事をしている。利用者の希望を聴いて、回転寿司やファミレスに出かけたり、出前を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせて対応している。食べにくかったり、不評のメニューは栄養士に伝え変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツを使用してもトイレでの自然な排泄ができるように支援している。夜間もトイレで排泄できるように時間でトイレにお連れしています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けしているが、本人の意思を尊重して対応している。夜間でも時間をみてトイレ誘導するなど、トイレでの排泄を基本に支援している。特に夜間は、離床センサーを活用して、事故の無い排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏の原因の1番であり認知症の発症原因であることを職員は理解して観察記録をしています。1日2回の体操、ストレッチ、歩行をしています。かかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが毎日入りたい方には時間調整しながら入っていただいています。拒否が強い方は無理じいはせず職員間の連携プレーで気持ちよく入浴できるようにしています。	1日おきの入浴を基本としているが、利用者の意向で連日入浴することもある。入浴時間は15:30から20:00としている。夕食後にも入浴するなど、家庭的な生活リズムを大事にしている。入浴を好まない時は、利用者の意向を尊重しながら、声掛けの工夫などにより対応している。季節になれば、敷地内で栽培しているゆずを収穫し、何日間もゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでお手伝い、余暇支援、散歩をすることが夜間の良眠に繋がります。疲れたら適度に居室で休息したり、昼寝をしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことがすぐ分かるようまた与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表を職員二人で確認をしている。薬の変更がある時は連絡ノート、引継により徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意なこと、好きな歌を職員が理解して得意分野のことが発揮できるような場面を作っている。役割があることが自信になっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然恵まれた環境なので、天気の良い時は午前、午後と散歩にお連れしています。全棟行事としてご家族にも協力していただき春・秋の遠足をしています。	天気の良い日には、散歩に出掛けている。事業所周辺は、自然豊かな散歩コースに恵まれている。馴染みの地域の方と挨拶を交わし、庭の花や農産物のお裾分けをいただいている。事業所の広い敷地内を散策したり、ベンチで外気浴を楽しむこともできる。事業所のワゴン車で、初詣やズーラシアへ遠足に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることをその都度お話ししています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族の了解を得た上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をかけている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンで調理をしている職員と話をすることができる。程良い明るさと音量で心地よい環境作りをしています。CDの曲も季節、好みで選んでいます。左右の大きな窓からは外が見えます。	共用空間は開口部が大きいいため、日中は外光が差し込み大変明るくなっている。光が強い時には、カーテンの開閉をこまめに行い、穏やかな環境づくりに努めている。衛生管理に力を入れており、掃除、換気、湿度管理を徹底している。トイレの他、ドアノブ、照明等のスイッチ、パソコンマウスなど、手が触れるものは丁寧に消毒し、感染症防止に努めている。広い敷地内には、多種多様な植栽がある。年間を通じて、花や果実が絶えず、利用者や訪問者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり顔が向きあわないように配置しています。夜はテレビを一緒に観ています。ソファが一人になれる空間にもなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活しているが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去しています。	居室内のエアコン、レースカーテン、クローゼット、照明器具は備え付けである。ダンス、ベッド、テレビ、イス、時計、家族写真など馴染みの物が持ち込まれている。数枚のバスタオルを干して湿度管理をしている。部屋は十分な広さがありゆったりとくつろげる。掃き出し窓からベランダに自由に入出りができ、開放的な構造になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあります。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどの得意のお手伝いをいただいています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム都筑の丘

作成日

平成30年6月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	災害備蓄は職員分を含め3日以上を事業所外の倉庫で保管しています。非常時に備え、備蓄管理表を作成し、事業所内事務室等に掲示するなどして、職員に備蓄状況を周知することを期待します。	職員分も含め3日分の水、非常食の「備蓄管理表」を作成し備蓄状況を把握できるようにします。	職員分も含め3日分の備蓄量を計算し、賞味期限を確認し入れ替えを行い備蓄管理表を作成した。別紙参照	1か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。